

## レタス F 1 育種法の改良による加工専用 F 1 品種の育成

### 1 中核機関・研究総括者

長野県野菜花き試験場 芹澤 啓明

### 2 研究期間

2005～2009年度（5年間）

### 3 研究目的

レタスは消費の6割近くが加工・外食産業で使用されている。しかし、現段階では加工・外食産業用に適した品種の育成や検討は全くされおらず、課題として残されている。我々は、F1組合せで発現するヘテロシスを利用し、レタス根腐病抵抗性などの病害抵抗性や幅広い気象環境適応性を示し、収量性が高く大型の半結球型加工専用レタスF1品種を育成する。

### 4 研究内容及び実施体制

- ① 雄性不稔利用によるF1種子採種法の改良と適用（長野県野菜花き試験場、千葉大学、（社）長野県原種センター、タキイ種苗（株））  
DNAマーカーによる雄性不稔個体判別技術の開発、F1採種におけるレタス訪花昆虫の検討、及びF1採種における人工交配技術の適用性の検討と改良を行う。
- ② 雄性不稔利用による加工用レタスF1品種の育成（長野野菜花き試験場、（社）長野県原種センター）  
F1組合せ雄性不稔雌親系統及びF1組合せ系統の作出、及びF1組合せ系統の選定（現地試験を含む）における適用性の検討を行う。

### 5 目標とする成果

第一に現在のレタスF1育種法をより効率的、省力的な方法に改良し、同時にF1種子の採種体系を確立する。第二に改良したレタスF1育種法に基づき、今までになかった加工専用のレタスF1品種を育成する。これにより、加工専用種だけでなく、多種多様なタイプのF1レタスを短期間に育成することが可能となり、変化の激しい市場や消費者ニーズに素早く対応できるようになる。また、ヘテロシスにより幅広い気象環境への適応性やレタス根腐病などの病害抵抗性の獲得、さらには収量性の向上や作期適応性の向上により、既存産地での安定生産はもとより、新しい産地の形成など地域振興としても期待される。

# レタスF<sub>1</sub>育種法の改良による加工専用F<sub>1</sub>品種の育成

